



A FILM BY; Nicolas Humbert & Werner Penzel

Middle of the Moment

Nomadic Lesson with Johann

ジョアンとのノマディック・レッスン



ミドル・オブ・ザ・モーメント



Cirque O (Johann Le Guillerm/Cirque ici)

シルク・オー (ジョアン・ル・ギエルム/現シルク・イシ)

Touareg Nomads in the Sahara

サハラの子牧民トゥアルグ

Robert Lax

ロバート・ラックス

Music: Fred Frith

音楽: フレッド・フリ思

監督: ニコラ・ハンベルト、ヴェルナー・ペンツェル/撮影: チリンスキー

編集: ジゼラ・カストロナリ、ニコラ・ハンベルト、ヴェルナー・ペンツェル

制作: シネノマド・レス・バルズリ/1995年/35ミリ映画/1:1.66/Dolby SR/1時間20分/モノクロ/スイスドイツ合作

1995年フロレンス映画祭ドキュメンタリー部門グランプリ、1995年ベルリン国際映画祭出品

/mageForum

A FILM BY; Nicolas Humbert & Werner Penzel

Middle of the Moment

ミドル・オブ・ザ・モーメント



●ノマディック・シネマの誕生

オルタナティブなノマディック・シネマとして脚光を浴びているのがこの「ミドル・オブ・ザ・モーメント」だ。ミュンヘンの映画学校を卒業した二人、ニコラ・ハンベルトとヴェルナー・ペンツェルは、真に自由な映画作りを決意、スイスから、南北アメリカ、東京、大阪、京都と旅しながら映画を制作。ノマディック・シネマ誕生の鍵となる自由な音楽表現を追及するフレッド・プリスと出会う。さらにライブテヒ、チューリッヒと放浪しながら映画作りを模索していた。その途上、サーカスの一団「シルク・オー」と出会う。北ヨーロッパ巡業中の、ジョアン・ル・ギエルム率いるこの「シルク・オー」こそ現代のノマド(遊牧民)だった。この出会いがノマディック・シネマ誕生のもう一つの鍵であった。

●ジョアンとのノマディック・レッスン

現在、日本で大ブームを巻き起こしているヌーヴォ・シルク。その中心に居るのがフランス、シルク(Cirque=フランス語でサーカスの意)界の旗手ジョアン・ル・ギエルム。いまや伝説となった「シルク・オー」を、第1期フランス国立サーカス学校時代の仲間6人とともに創設したのは、彼がまだ22歳の時だった。その斬新な表現で「まったく新しいサーカス」と騒がれる一方、「こんなのはサーカスではな

い」とたたかれもした。だが、クラウンのジョアンは「サーカスのあるべき姿にも、新しいという評価にもさほどの意味はない」と、当時語っている。そのジョアンがソロで活動を望んだために、93年、一座は惜しまれながら解散。2年の準備を経てソロ・パフォーマンスを中心にした「シルク・イシ」を旗揚げする。そのジョアンと二人の映像作家のコラボレーションはまさにノマディック・レッスンであった。(その後、「シルク・イシ」は96年、史上最年少27歳でシルク・ナショナル・グランプリを受賞。)

●サハラノマドとシルク・オー、そして詩人ロバート・ラックス

二人の映像作家はノマディズムのルーツを求めてアフリカのサハラ砂漠へたり着く。砂漠の砂を掘って水を掻きだす人々、ノマドたちの不思議な儀式、ラクダの出産、大地にひれ伏して祈りを捧げる行為などのノマディック・ライフ(遊牧民的生活)の描写。そこに「シルク・オー」のテントを建てる団員、キャンピング・カーの中での生活、綱渡りするジョアン、テントの解体などの映像が織り込まれ、さらにアメリカの老詩人ロバート・ラックスの旅する姿と詩の朗読。これらの音と映像はノマディック・ライフそのものを再現する。これは見る映画ではなくノマディズムを体験するノマディック・シネマなのだから。

「ここ」で人間は人間に出会う シルク・イシ—「ここ」という名前のサーカス

96年度「サーカス・ナショナル・グランプリ」受賞作品

演出・出演: Johann Le Guillerm

音楽: Quartet < Monsieur le Baron >

●映画「ミドル・オブ・ザ・モーメント」が撮影されてから6年。当時「シルク・オー」に出演していたジョアン・ル・ギエルムが、彼の新たな創作「シルク・イシ」とともに初来日する。長い2本の三編みと印象的な大きな瞳は当時のままだが、サーカスをめぐる探求は、この6年で確実に深まった。人間はなぜサーカスをし、そ

れをなぜ人間は見たいと思うのか。その答えの一端が「ここ」にある。彼の肉体を衝き動かし、あるいは静止させる音楽家たちとのセッション、自力で動く奇妙な彫刻、体感を通じて魂に響き渡る詩—彼に実現しうる限りの芸術表現が、人間の行為が、人間には何ができるのかを知りたいという熱い意志と好奇心が、「ここ」にある……。

会場: 国際交流フォーラム

日時: 1998年9月11日(金)~15日(祝)/7時開演、日・祝は2時開演

料金: 一般3,800円(前売)/60歳以上・学生・児童3,000円(前売)/当日は500円増し

お問い合わせ: ACC TEL (03) 3403-1561

●瞬間のはざま

ミドル・オブ・ザ・モーメントとは「瞬間のはざま」。ニコラ・ハンベルトは次のように語る。「この映画は、ある瞬間を意識するための入口。その瞬間へと自分自身を投入することが出来れば、たぶんそれが家と呼びうるものなんだろう。戻っていくべき場所ではなく、世界や自分自身を感じていくなかの休息。それはノマドにとっての家であり、大いなるユートピアだ」

●アルケラス—すべて良好!

映画に現れるノマドの不思議な儀式。マラブと呼ばれる司祭が木の板に黒インキで文字を書き、その文字を水で洗い流す。もう一人の男がその水を飲む。この儀式は「グリグリ」といって、文字の水を飲んだ人を災難から守るための、おまじないの意味がある。文字の内容は、古くからマラブの間だけで受け継がれているもので、他の人には誰もわからない。また、何マイルも先から二人の遊牧民が近づいてきて、お互いの手をぼんぼんと叩く場面。これは出合った所で「喉は渇いていませんか」「お元気ですか」「お母さんは元気ですか」「お兄さんは元気ですか」と尋ね合う。答えはたとえ病気であれお母さんが亡くなってすぐであれ、「アルケラス—すべて良好!」。

●フレッド・プリスのノマディック・ミュージック

音楽のようなノマドのセリフとともに、リズムカルなパーカッションの響き、時にジブシー音楽を連想させる哀愁を帯びた音楽を作りだしたのがフレッド・プリスである。フレッドは独自のユニット「キープ・ザ・ドッグ」で活動するほか、ジャンルにとられない即興音楽家としてブライアン・イーノ、ロバート・ワイアット、ジョン・ゾーン、ザ・レジデンツらとのライブ、セッション、パフォーマンスに参加。映画自体が音楽的に構成されているこの映画のサントラCDはRecRec Music (スイス)からリリースされている。

●ニコラ・ハンベルトとヴェルナー・ペンツェル

ニコラは1958年、ヴェルナーは1950年生れ。絵画、音楽、文学に興味を持っていた二人はともにミュンヘンの映画学校に学び映画制作を開始。90年に共同で長編第一作「ステップ・アクロス・ザ・ボーダー」を完成。本映画は共同監督による長編第二作目、世界各地で上映され注目を集めている。

10/3(土)~9(金)

連日夜8:10~(終映9:30) 6日は休館

神戸アートビレッジセンター
078-512-5500

神戸高速「新開地」より徒歩3分、JR「神戸」より徒歩10分

10/10(土)~18(日)

連日夜9:00~(終映10:20) 12日は休映

シネ・ヌーヴォ・梅田
06-365-0094

大阪・梅田ホワイト「泉の広場」6番出口北へすぐ

10/22(木)~24(土)

連日夜9:00~(終映10:27)

京都みなみ会館
075-661-3993

京都・九条大宮・近鉄「東寺」駅西へ150M

前売特別鑑賞券 1400円

各劇場、チケットぴあ、各プレイガイドにて
好評発売中!

(当日一般1700円 当日学生1400円)

共通チケットではありません。
各劇場のものをお求めください。

